

病理専門医制度運営委員会だより（第38号）

1. 2024年度病理専門医試験について：

2024年度の専門医試験は、8月10、11日（土、日）に杏林大学医学部で実施します。試験方式はPCを用いたヴァーチャルスライドと写真（PDF配布）で試験を行います。PCはレンタルで用意しますので、持ち込みは不要です。ビューワーは浜松ホトニクスのNDP.view2 画像閲覧ソフトウェアを使用します。受験される皆様にはヴァーチャルスライドに事前に慣れておいてから試験に臨みますようお願いいたします。ソフトウェアは浜松ホトニクスのホームページからダウンロード可能です（<https://www.hamamatsu.com/jp/ja/product/life-science-and-medical-systems/digital-slide-scanner/U12388-01.html>）。また、サンプルデジタル病理画像（WSI）を会員専用ページに掲載しておりますのでこちらも練習のために活用いただければ幸いです。

<https://e-learning.pathology.or.jp/course/view.php?id=63>

2. 2024年度の病理専門医受験資格審査について：

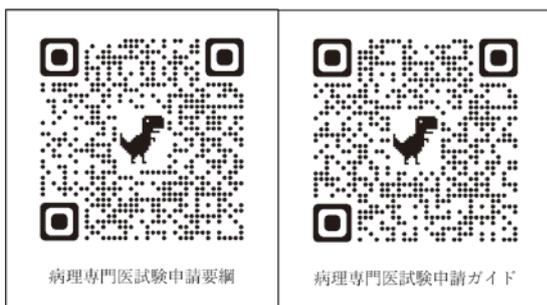
剖検数の減少が続いており、必要剖検症例数が3年間で24例となりました。ただし、経験数の減少に対する「質の担保」を確保するため、1回目の更新までに剖検講習会の受講と10例の剖検症例の提出（指導・副執刀症例も含む）が必要となります。また受験申請時のCPC報告書もこれまでの2例から4例に増えましたのでご注意ください。

2023年度より全ての受験者が同じ受験要件で申請となります。詳細は以下をご確認ください。

https://www.pathology.or.jp/senmoni/koushin_jouken.pdf

2023年度から医科の受験申請は電子化され、PDFファイルのアップロードなどを用いる方式になりました。2024年度病理専門医試験受験申請は2024年4月1日13時より5月1日13時までです。4月10日17時よりWEBでの受験予定者向け書類作成説明会を行います。参加登録方法は2024年度試験要綱公示の際に案内致します。

受験申請に当たり「申請要綱」をよく読み書類を準備し、電子申請の操作方法は「病理専門医試験申請ガイド」を読み、早めの対応をお願いします。



以下特に、例年問題となる部分を説明します。

○人体病理学の業績3編：

- ・あくまでも「人体病理（病理診断学）」の業績です。
- ・3編中1編は論文でなければなりません。
- ・3編のうちどれか1編は受験者本人が筆頭でなければなりません。
- ・論文が筆頭である必要はありません。
- ・学会発表は原則的に病理学会（総会・支部会）での発表のものとしします。
- ・他学会や国際学会の発表も可ですが、病理学会の更新単位付与が認められているものに限られます。
- ・支部会や他学会での発表を業績とする場合は、受験者本人が筆頭演者であることが必要です。
- ・掲載雑誌や学会発表が受験資格となるか判断が難しい場合は、病理学会事務局にご相談ください。

○研修手帳（病理専門医研修ファイル）：

- ・捺印などを簡素にした版がHPにありますので、こちらの版をご活用下さい。

○死体解剖資格：厚生労働省医道審議会で認定されるものですが、2018年度より主執刀20例かつ第一例から2年以上の経験が必要となりました。死体解剖資格のための解剖症例に、医師臨床研修（いわゆる初期研修）期間の症例は認められません。また死体解剖資格を取得するには、開頭を含む剖検症例が1例もない場合、認定が保留されますのでご注意ください。死体解剖資格審査は時間がかかり、書類再提出となる事例も多くなっています。4月末の受験願書締め切りに間に合うように、受験予定者は死体解剖資格の要件を満たした時点で直ちに申請をしてください。

○病理解剖報告書：24例の剖検報告書の写しが必要です。病理専門医受験のための解剖症例は、病理専門研修開始後の症例だけが対象となります。主診断医が診断者名の筆頭にあることが望ましいのですが、施設（システム）により執刀医や診断医が不明瞭な病理解剖報告書があります。診断書上の記載順位にかかわらず、申請者が筆頭で執刀したことを推薦者に確認してもらい必要があります。推薦者はこの点を確認し、推薦書にチェックしてください。

○書類をアップロードする時には、剖検や迅速のリストに書かれた順番と診断書の順番が一致するようにしてください。

○JMSB Online System+（日本専門医機構研修システム）での研修修了申請について（2018年度以降の研修開始者のみ）：対象者は受験申請前までに、「研修修了申請」を行いプログラム責任者に「研修修了申請」の承認を受けてください。

研修は原則として基幹施設と連携施設で行う必要があります。

す。ただ、基幹施設のみ、あるいは連携施設のみで研修を行なった場合でも、週1回程度、他施設で研修を行うことで研修修了できる場合があります。例えば連携施設のみで研修している人は基幹施設に3年間週1回研修しに行った場合、6ヶ月相当の基幹施設での研修と同等とみなされます。基幹施設のみで研修している人は連携施設で15ヶ月週1回研修することで、3ヶ月相当の連携施設での研修と同等とみなされます。メインで研修している基幹施設または連携施設から週1回で連携施設または基幹施設へ研修に行く場合、システムの備考欄に週1回研修の施設名と研修期間を記載していただく必要があります。1つの研修施設の登録だけでは日本専門医機構で研修の承認がされず、試験合格後も認定証が発行されませんので、そのような場合は必ずシステムの備考欄への記載を忘れないように注意してください。登録方法の詳細は以下よりご確認ください。(https://www.pathology.or.jp/senmoni/jmsb_system.pdf)

○会員システムについて：特に受験申請者は会員システムにはご所属先を必ず登録してください。

3. 病理専門医資格更新について：

資格更新の案内は8月中に行いますが、会員システム上で更新年度がわかりますので、事前にご確認頂き、更新年度までに必要単位を取得できるようにご準備ください。2024年秋に更新をされる方は、2019年11月以降、2024年10月までのものしか認められませんのでご注意ください。

学術集会参加単位は6単位が上限ですので、支部会での活動が主体の先生は、総会や希少がんeラーニングなどでの領域講習の単位の取得をお願いいたします。

4. 希少がん病理診断画像問題・解説 (eラーニング) について：

職場あるいは自宅でも学習可能で、専門医更新のための領域講習の単位になります。是非、日常診療および希少がんの病理診断力の向上にお役立て下さい。

・現在(3月時点)は骨軟部腫瘍(29コース)・脳腫瘍(20コース)・小児腫瘍(28コース)・頭頸部腫瘍(23コース)・皮膚腫瘍(23コース)・悪性リンパ腫(28コース)で全151コース(1コース：10問)、希少サブタイプとして婦人科と乳腺が各1コースずつあります。

- ・8割(8問)以上の得点で合格となり、1コースにつき領域講習1単位が認定されます。ただし、専門医更新の病理領域講習に使えるのは最大15単位までです。
- ・8問以上をクリアするまで何度でも繰り返し受講することができます。
- ・取得単位は病理学会会員システムの「単位」欄に自動的に反映されます。
- ・専門医更新書類提出時には、システム上の単位を印刷・添付するなどの手続きは不要です。
- ・希少がん診断のための病理医育成事業ホームページ「コー

スカテゴリ」から会員システムのID、PWを用いてログインし、履修することができます。https://rarecancer.pathology.or.jp/

- ・希少がん診断のための病理医育成事業「希少がん病理診断講習会」が年間4回開催されています。いずれも事前予約のWEB開催で受講料は無料です。参加者には病理領域講習単位が付与されます。

5. 専門医広告について：

専門医機構専門医が医療法上の広告可能専門領域となりました。従来の病理学会認定病理専門医の方は次回更新時(専門医機構での更新時)までは「病理学会認定病理専門医」の標榜となります。専門医機構と病理学会両者から認定されている方は「専門医機構認定病理専門医」だけの標榜となり、専門医機構だけから認定されている方は「専門医機構認定病理専門医」となります。以下HPに詳細がありますのでご参照ください。

https://www.pathology.or.jp/senmoni/senmoni/20211210info.html

6. 専門医研修制度について(再掲)：

専攻医の採用が決定しましたら、プログラム制・カリキュラム制を問わず、専攻医自身が確実に専門医機構へ専攻医登録をしてください。登録時期は研修開始年度前年の秋(11月頃)です。登録が遅れた場合の猶予はなく、1年単位で専攻の修了が遅れることになり、かつ未登録時点での経験症例はカウントされません。採用が決まった時点で直ちに専門医機構への登録も忘れずをお願いします。

プログラム定員の上限定(シーリング)について、病理を含む6領域(他は臨床検査、外科、産婦人科、救急科、総合診療)に関してはシーリング対象外となっています。しかしながら、専門医機構のシーリング案に意見をもつ関係団体も多く、専門医機構としては厚労省の部会と折衝をしているところです。状況がわかり次第、HPなどで情報を開示しますので、皆様にはHPのチェックをお願いします。なお、今進められているシーリングは、基本データとして三師調査(2年ごとに年末に行われる医師・歯科医師・薬剤師の勤務状況調査)、将来人口予想、DPCデータなどが用いられ、厚労省によって綿密に作られています。ただ、三師調査によると病理診断科を主としている医師数は、病理学会で想定している数値と食い違いがあり、この数値を基に計算されると不都合が生じる可能性があります。次回の三師調査の時には正確な記入を心がけていただくよう、お願いします。なお、シーリングが今後病理領域まで及んでくるのか、今のところ状況は不明瞭です。とはいえ、専攻医採用に関して遠慮することはなく、これまでと同様、指導に当たる先生方には積極的な勧誘活動をお願いします。各プログラムの定員についてもこれまで同様の柔軟な判断をさせていただきたいと考えております。

前回もお知らせしてきましたが、カリキュラム制度による採用が緩和されています。すでに他の基本領域の専門医資格(内

科の場合は認定医も含む)所有者(病理専門医とのダブルボード取得を目指す方)だけではなく、妊娠・出産・育児・介護・本人の疾病などでもこの制度を使うことが可能です。プログラム制で採用された専攻医も留学、妊娠、出産等の特段の理由がある場合、カリキュラム制への移行も可能です。ただし、カリキュラム制の方もプログラム制の方と同様に、専門医機構への専攻医登録を行い、システム上で採用していただく必要があります。また病理学会入会後に研修届を提出し、研修手帳を受け取ってください。カリキュラム制度で採用する場合でも原則として教育資源(特に剖検数と指導医数)の確実な確保は必要です。カリキュラム制に関する詳細は病理学会ホームページ(<https://pathology.or.jp/senmoni/curriculum.html>)をご確認下さい。

2021年度より研究医養成プログラムが全国で40名程度の定員で開始されています。専門研修と大学院などでの研究を並行させるプログラムです。これに関して、病理領域では従来から大学院での研究を並行して行っている事例も多いため、病理学会として定員は設けていません。

7. 分子病理専門医認定制度について

・分子病理専門医認定者名簿を掲載しています。2024年4月1日認定者も追加されています。

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/certified-pathologist.html>

・2024年度第5回分子病理専門医試験は以下日程で実施予定です。

2024年12月15日(日)(東京駅周辺の会場を予定)。試験要綱は2024年4月1日に公示いたします。

対象者: 病理専門医、口腔病理専門医

<https://pathology.or.jp/senmoni/bunshibyouri.html>

8. 専門医機構の動向について

○サブスペシャリティについて: 現時点で専門医機構によるサブスペシャリティ領域認定は不確定要素が多く、見通しをつけることが難しい状況ですが、日本臨床細胞学会の認定する細胞診専門医はカテゴリ3の専門医として専門医機構承認を目指しています。状況が明瞭になり次第、HPなどで連絡いたします。

○専門医試験受験年限・回数の制限について: これまで学会主導の専門医試験の受験回数に制限はありませんでしたが、2017年度以降の専門医機構での研修開始者は、今後は研修修了後5年以内(受験回数5回以内)が受験資格となります。育児や介護などやむを得ない事情がある場合は、1年単位での延長は可能です。

○専門医更新時の試験について: これまで専門医資格更新は単位数のみで決められていましたが、専門医機構の方針として、単位数だけでなく更新時にも何らかの試験を行う方向が出されています。現時点ではまだ検討中ですが、今後、WEBなどを用いた試験が加わることも予想されますので、予めご了承ください。

○2023年7月以降に専門医資格の認定・更新がされた方には、医師免許証と同様、戸籍名の後に括弧つきで旧姓の併記が可能になりました。詳しくはJMSB Online System+でご確認ください。<https://sys.jmsb.or.jp/trainingProgram/html/index.html>

9. 今後の日程について:

・希少がん診断のための病理医育成事業では引き続き希少がん病理診断講習会を実施しております。すべて事前申込制で、定員以上の申し込みの場合は抽選となります。HP(<https://rarecancer.pathology.or.jp/>)でご確認ください。希少がん・病理診断講習会は、病理専門医資格更新の病理領域講習として認定されております。また専門医受験に必要な病理診断に関する講習会としても認められております。

・第13回ゲノム病理標準化講習会: 2024年7月頃
(オンデマンド配信予定)

・第20回日本病理学会カンファレンス: 2024年7月26~27日
(山形市)

・第12回分子病理専門医講習会: 2024年8月24日
(WEB開催)

・第18回診断病理サマーフェスト: 2024年8月31日~9月1日
(東京、オンデマンド配信)

・第13回分子病理専門医講習会: 2024年9月23日
(WEB開催)

・第70回秋期特別総会: 2024年11月7~8日(東京)

・2024年度細胞診講習会: 2025年1月25~26日(WEB開催)
(文責: 森井英一・大橋健一・池田純一郎、粕雄一朗、中黒匠人)

== 特集 特集 出張先の楽しみ ==
出張先の楽しみについて聞いてみました

北海道大学大学院医学研究院 死因究明教育研究センター
田中 敏

学会出張や病理診断の出張の出張先の楽しみは人それぞれであると思います。色々な意見があるかと思い、Google Formを使って、北海道支部の方々に出張先の楽しみを聞いてみました。色々な回答、意見を頂き、ありがとうございました。

いくつか選択肢(複数回答あり)を挙げて「出張先で楽しみにしていること」を聞いたところ、やはり約8割の方が「グルメ、おいしいものを食べること」を挙げておりました。北海道は美味しいものが多いと思いますが、「普段と違うものが食べられるから」など、日常ではあまりお目にかかれないご当地の名物グルメや贅沢な外食を楽しんでいるようです。意外な意見としては、北海道の地方へのお出張先では、札幌よりも安く寿司や天ぷらを食べられるとのこと。確かに釧路や函館は海鮮が新鮮で安いと思いました。

その他は「観光」を約6割のかたが挙げておりました。理由

としては「学会でしか遠方に行けない」、「道外へでかけられる日が少なく、いい機会である」とのこと。普段多忙な方には貴重な機会であるでしょう。具体的な観光内容では、「美術館巡り」、「クラシック音楽のコンサート」、「美術館巡り」、「温泉」、「神社仏閣巡り」、「良い景色を見る」、との意見が見られました。趣味を満喫していることが伺えます。筆者は、学会開催地と試合日程が合えば、普段は見られないプロ野球の試合を見るのが楽しみです。他球場で観る試合は新鮮で、食べ物もおいしいです。

また、「知人に会う」が約4割の方が挙げていました。普段会えない友人と会うのは楽しいものでしょう。筆者にも学会でしか会えない知人がいて、夜に食事や飲み会をするのを毎年楽しみにしております。

意外と多かったのが、1/3の方が「移動自体が好き」と答えていました。似たような意見では、「普段と違うことが好き」、「移動時間に普段は出来ない読書が楽しみ」と、旅行気分自体を味わっているようです。先程の「知人に会う」楽しみと対照的に、「自分一人になって、非日常を味わう」のが楽しみだ、との意見もありました。

特に楽しかった（楽しみな）出張先を聞いたところ、道内では函館、釧路、帯広などが挙げられていました。道内出張での楽しみはグルメの他、「温泉でリゾート気分を味わえる」などが挙げられていました。道外では京都、福岡、出雲、東京、沖縄、下関、北陸、四国などが挙げられておりました。京都を挙げた方はやはり、神社仏閣を楽しみにしているとの事。出雲は出雲大社かと思ったら温泉が楽しみとの事でした。温泉も有名なようです。北海道からの意見のためか、福岡や沖縄が好評のようで、「福岡は美味しいものが多い」、「沖縄の学会はよかった」、他に「下関でたくさんお土産を買ってきた」との回答がありました。筆者も沖縄や下関の学会には現地参加して、北海道では味わえない食べ物を楽しみました。海外では、サンフランシスコが良かったとの回答がありました。

皆さん、それぞれ楽しみがあるようですが、「出張先の仕事自体が楽しみ」という回答も少しですけれどもありました。これからも出張の機会はたくさんあると思いますが、仕事も含めて、色々楽しみを見つけていきたいと思います。

出張先の楽しみ“早起きは三文の徳”

弘前大学大学院医学研究科 分子病態病理学講座
櫛引 英恵

私の出張先の楽しみは、四季折々の朝に出会うこと、移動中の読書の二つです。

外勤先は、弘前から遠方の病院が多く、三沢までは約二時間、函館までは二時間四十分、下北までは三時間、あるいはそれ以上の時間を要します。私は標本を診るのが遅く、診断の時間をなるべく多めに確保したいので、日帰りで外勤に行くときは朝

四時半に「えいや」と起きます。

始発の電車に乗ろうと家を飛び出すとき、眼前に広がる世界はさまざまに形を変えます。まばゆい光の射す春の柔らかな空気や、薄青く広がる空と鱗雲を透かす陽光、湿った熱気に曇天、紅く燃える雲とつむじ風、明けきらぬ夜に光る月と凍った路。しんと静まり返った霧立ち込める田畑にさっと光が差し込み、束の間、一面に金色の霧がきらめくような瞬間に出くわすと、早起きは良いものだな、と心から思います。

もう一つの楽しみである移動中の読書は、人生の作戦会議にも似ています。日々のあれやこれやを生き延びるために、今、自分に何が必要なか。仕事の優先順位をつけること、取り掛かる順番を決めること、難しいと思うのであれば内容を因数分解して作業しやすくすること。うまくいかないな、と感じたとき、業界を問わず、多忙な職種に就く人々の書いた本を通じて、視点の置き方や思考法から思いがけないヒントを得ることができます。

睡眠や食事、運動、孤独との向き合い方、些細だけれど無視もできない心身の困りごと、移動中に考える事案の一つです。日々の不調をストレスの一言で片づけるのは簡単ですが、我々の体の反応が、電気信号や化学物質の伝達に依るところが大きいと知っているからこそ、「今起きている事象の根っこは何ぞや」「何か突破口はあるはず」と考え続けます。悩みは、自分ひとりだけの悩みとは限りません。同じように困っている誰かが、よりよい解決法を知っているかもしれない。何気なく開いた一冊から、自分が思いつかなかった幾つものアイデアを得られると、とても嬉しくなります。

忙しい日々の中、浮かんでは消える泡沫のような思考を手元に引き寄せ、言葉にし、自らの芯を築く作業は、決して容易ではありません。「援軍は来ない」と自分に言い聞かせながら顕微鏡に向かう夜、思いもよらない飛び込みの仕事が重なる日、極限状態で頭をフル回転させながら駆け回る寝不足の朝。世の荒波に揉まれて溺れそうになりながら「どうやって生き延びたらいいか」と考えるとき、顔も知らない誰かが綴った文章に、短い情景の一場面に、登場人物の台詞や振る舞いに、少しだけ心が救われて、「諦めないぞ」という気持ちになります。

私の出張先の楽しみは、季節を彩る朝に出会うこと、生きる知恵を与えてくれる読書の二つです。

皆さんのお楽しみは何ですか？

出張先の楽しみ

国際医療福祉大学医学部病理学 富田 裕彦

出張先の楽しみという原稿依頼をいただきました。集団ヒステリーのようなコロナ騒動もいよいよ終焉というほっとした気持ちとともに、パンデミックはもうたくさんという切なる願いを込めて、今後の医学、病理学を牽引する若い方々向けに昔話をさせていただきます。

昔の学会出張は、現在と違ってのんびりしていました。単位に縛られることなく、知らない土地でのワクワク感が強かったです。病理学会先輩方の大英断により東京で行われていた秋の病理学会を、毎年異なる地方で開催することにしたのもそのあらわれでしょうか。さて、私のような浅学の輩にとっては、学会出張の楽しみは会場外にありました。USCAP で訪れたアトランタのキング牧師記念館で、受付に並んだ小汚い（外国人風）中年男女がお互いに、「USCAP?」「USCAP?」と聞きあい、結局全員が USCAP の参加者だとわかったときは、感無量でした。

10 年以上前、カンファレンスでローマを訪れる機会がありました。会議、宿泊はローマ郊外高速道路沿いの至極不便（缶詰め会議にはうってつけ）な場所でしたが、私は当然公共交通機関を乗り継いで市内へと向かいました。市バスでイタリア国鉄の最寄り駅に着くと無人駅でホームのみ（券売機や改札は無い）。列車がやってきましたが朝のラッシュで結構満員、終点の市内駅で普通に下車、意図せずの無賃乗車は結構ドキドキでした。ローマでのミッションの一つがブルガリアアウトレット訪問でした。住所は Aurelia 通り 1050、最寄りの地下鉄駅から乗り込んだ市バスは Aurelia 通りを進み、道の片側は 1, 3, 5 と奇数番、対側は 2, 4, 6 と偶数番が各戸に表示されています。番地を見ながら 1050 で降りたらいいんだ、楽勝と思っていると、100 を超えたところから郊外になり、家が疎らで道から離れ番地がわからなくなりました。車窓の雰囲気も微妙に変化し、道端で露出度の高い恰好で手を振るお嬢さん方を見かけるアバンギャルド感満載、そのうち場末のような崩れかけた家の多い集落でバスは停車、終点でした。乗ってきたバスに再び乗り込み市内に向かいやっと到着。お客さんは私一人、うろろろするも何買っていかかわからず店員さんのお勧めの 7 万円位の指輪を 1 個買いました。記憶に残るアウトレット道中でしたが、そんなに苦労したのにどうしてもっと買わないんだと折に触れなげられます。

これに対し、呼吸器外科の O 先生（昔一緒によく解剖した）は、学会会場で有名な海外のスピーカーを訪ね、一緒に写真を撮るそうです。その先生のもとに教室員を留学させるなど確実に成果も出ているとのこと。それを聞いて病理学会懇親会で海外からの有名な先生が一人寂しそうにお皿に料理を取っている姿が目につきました。若い先生方には、私ではなく、O 先生を手本とし国際交流を進め世界に羽ばたいてほしいという願いをもってまとめたいと思います。

出張と移動の楽しみ

富山大学学術研究部医学系病理診断学講座 平林 健一
出張の楽しみといえば、名所めぐり、ご当地グルメや地酒などだろうか。昨年は、病理学会が開催された下関でフグ料理、臨床細胞学会が開催された福岡で水炊き、三重で行われた学会で松阪牛の焼肉を堪能した。ご当地グルメは楽しみのひとつで

あるが、残念ながら私はあまり食にこだわりがない。なんなら、3 食ファストフードでも大丈夫だ。大抵の場合、ご当地グルメの有名店は予約がいっぱいで入れないことが多い。そんな時、隣にマクドナルドがあれば躊躇なくダブルチーズバーガーセットを注文する。お酒は大好きなので、学会関係者で集まって飲み会をするのは楽しいが、現在諸事情で禁酒をしておりその楽しみは半減した（お酒は飲みませんが、飲み会は好きなので誘ってください）。

食と酒以外なら観光となる。観光といっても、一つの場所をじっくりみるというよりも、色々な場所を巡るのが好みだ。近くにカーシェアがあれば、スマホのアプリで車をレンタルして少し離れたところへドライブする。昨年徳島に出張した時は、大塚国際美術館、鳴門の渦潮までドライブした。とくに大塚国際美術館には圧倒された。とにかくデカイ。冷やかし程度にふらっと立ち寄ったが、すべて見学するのに半日かかった。美術にはあまり興味はないが、大塚国際美術館はよかった。収蔵品もよかったが、「こんなバカでかい美術館を造った大塚製菓の財力スゲー！」と、ボカリスエットを飲むたびに思う。ローカル線に乗って旅をするのもよい。和歌山での学会では、和歌山電鐵に乗って貴志駅で勤務している猫の「たま駅長」に会いにいった。自分が会いにいった時は、たま駅長はガラスケースの中で丸くなって寝ていた。猫だから勤務時間のほとんどは寝ているのであろう。自分もそんな勤務をしてみたい。

実は観光よりも移動そのものが好きなのかもしれない。長時間のドライブや列車移動はあまり苦にならない。列車での移動時間は、普段できない書類仕事をするのに最適な時間だ。私の場合、列車の中だとなぜか仕事はかどる。だから、書類仕事のためにあえて列車に乗ることもある。先日も書類仕事と観光を兼ねて、特急「ひだ」に乗って富山から下呂まで片道 2 時間半書類仕事をしてきた。下呂では日帰り露天風呂に入って、飛騨牛そばを食べ、滞在時間 2 時間で富山にとんぼ返りした。もちろん、帰りの車内でも書類仕事をやった。仕事の合間に、車窓を眺めるのもよい気分転換になる。また、移動が好きな理由のひとつとして、スマホの位置情報ゲームの影響もある。行った場所の地図を塗れるという単純なゲームだ。知らない場所に行けば行くほど、地図が塗れる。現在、日本地図の 11% を塗ることができた。日本地図を 100% 塗りたいので、みなさん是非私を講演に呼んでください。行ったことのない地方都市であればより嬉しいです。どうぞ、よろしく願いいたします。

出張先の楽しみ

京都大学医学部附属病院 辻 賢太郎
この 4 月から病理医 7 年目となる辻と申します。卒後栃木県の自治医科大学附属病院に 7 年半勤務し、昨年 10 月に現職地に赴任しました。春と秋の病理学会以外にまだ出張らしい出張の経験もない私ですが、思いつくことを気楽に書かせて頂けれ

ばと思います。雑文をご容赦いただければ幸いです。

さて、私にとって一番の楽しみは何より食べることです。もちろん馴染みのあるチェーン店の安心感は旅先でも絶大ですが、初めて訪れる場所でその地域「らしい」雰囲気のあるものを頂くのにもまた、得がたい幸福を感じます。駅の売店で買うペットボトルのお茶さえも、地元産の茶葉から作られていたり、普段あまりお茶として飲むことのない穀物が使われていたりして、慌ただしい出張にほんのり旅情を添えてくれます。「身土不二」という言葉をどこかで聞いたことがあるせいか、その土地のものを身体に入ると、心なしか寿命がのびたような気持ちにもなります。

と言いつつ、実のところ一番心躍るのは、いわゆる「B級グルメ」と称されるジャンク路線の食事だったりします（これは寿命をのばすのでしょうか、縮めるのでしょうか）。大学生の頃に愛知旅行で「名古屋めし」に溺れたのは良い思い出です。昨年秋に学会で福岡を訪れた際には、宿の近くに24時間営業のラーメン屋さんがあることを知り、まだ暗いうちからひとり喜び勇んで「朝ラーメン」をはしごしてしまいました。1杯290円という価格設定には感動すら覚えました。昨晩から飲み明かしていたのであろうスーツ姿の男性グループや、大学生と思いき若者達が歓談する明け方の店内で、そういえば徹夜ができなくなってもう何年経つだろうと考えながら温かいラーメンをすすする時間は、満ち足りたものでした。

もう一つ、今後してみたいと思っているのが、博物館や史料館に足を運ぶことです。そう思うきっかけとなったのも、昨秋の福岡訪問でした。移動中に地図アプリを開いて、ふと目に入った「元寇史料館」という施設。その英語表記は「Mongolian Invasion Historical Museum」でした。Invasion。そもそも、病理の世界に入って以来、いつの間にか「invasion」を癌の侵襲・浸潤を指す病理用語のように認識していたところに、ロシアのウクライナ侵攻を報じる海外のニュースを見て、そうか、軍事的な「侵攻」も invasion か、と何だか新鮮に思ったものでした。そうして、戦地の直視しがたい被害のイメージが今や付与された「invasion」の言葉が「元寇」と結びついたとき、私の中で、小中学校で習った単なる「歴史用語」が、突如生々しいリアリティを伴ったものを感じられ、にわかに関心呼び起こされました。

結局その史料館を訪れることは叶いませんでしたが、初めて踏む土地でその地域の固有の歴史に触れることも、これからは出張での楽しみの一つに加えたいと思っています。

出張先の楽しみ

徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔生命科学分野
工藤 保誠

「出張先の楽しみ」というテーマで原稿の依頼を戴きました。新型コロナウイルス感染症のパンデミックもようやく終息の兆

しが見え、対面で行う学会が増え、出張の機会も多くなってきました。出張となると、電車、バス、飛行機など様々な手段で目的地に向かいます。その移動時の過ごし方は、個々に異なるものだと思います。私自身は移動中に本を読むことが理想ですが、実際は眠ってしまうことがほとんどです。週末になると、駅や空港では多くの観光客で賑わい、有名な飲食店では行列ができる光景が広がります。コロナ禍の静寂な駅や空港とは異なり、こうした活気に満ちた光景に喜びを感じます。

私自身も2023年は、日本病理学会総会（下関市）、日本癌学会学術総会（横浜市）、日本分子生物学会年会（神戸市）などの学会に参加し、九州大学、鹿児島大学、ムハマディア大学（インドネシア）、桂林医学院（中国）、ソウル国立大学（韓国）で講演の機会を頂戴いたしました。おそらく多くの方が共感されるかと思いますが、出張先の楽しみの一つは食事です。昨年、特に印象深かったのは、下関で開催された第112回日本病理学会総会の懇親会でした。マグロの解体ショーに、ふぐ刺し、くじらの希少部位を味わうことができました。多くの先輩方や友人とも久しぶりにお会いすることができ、非常に楽しい時間を過ごすことができました。

通常は訪れることの少ない地方ほど、出張の楽しみが広がります。地元の地酒やおつまみは格別で、海外出張もまた楽しいものです。異なる文化に触れ、普段食べたことのないような料理も楽しむことができます。もう一つの出張の楽しみは、温泉です。最近では、温泉や朝食サービスなどが充実したホテルが増えてきており、それも楽しみの一つとなっています。出張先では、新たな出会いや意見交換など刺激が多く、研究も含めていろいろな話をする中で、新たな展開や発見をもたらします。人との出会いを大切に、人生を楽しく、どんなことにも挑戦していきたいと思っています。



第112回日本病理学会総会懇親会
マグロの解体ショー



桂林（中国）の風景



ソウル大学病院前の医学博物館



ジョグジャカルタ（インドネシア）
の世界遺産ボロブドゥール寺院

私の出張先の楽しみ

九州大学大学院医学研究院保健学部門

検査技術科学分野/形態機能病理学 立石 悠喜

さて、皆さんは「駅の点描」という本をご存じだろうか。作者は遠城寺宗知氏。病理を長くされている先生方はピンとくるかもしれないが...「外科病理学第1版」の編集者の一人であり私が所属する九州大学の形態機能病理学教室の先々代の教授である。私がこの本に出合ったのは約5年前の2019年ごろであった。当時一緒に働いていたK先生から「こんな面白い本があるけど先生もやってみませんか」と言われてお借りしたのがきっかけである。今でこそ「乗り鉄」や「撮り鉄」が広く認知されるようになってきているが、遠城寺先生はそれ以前からの「乗り鉄」であり「撮り鉄」であったようである。さらに「撮り鉄」の中でも電車ではなく駅舎専門の「撮り鉄」であり、上記の本を含め4冊の本を出版されている。全国への出張のついでにそれぞれの土地の電車に乗りその思い出に駅舎を撮影していたら、駅舎の撮影の方が高じていったと書かれてある。

2019年頃の私は月に数回、金曜日に福岡から愛媛県松山市へ診断応援に行くのが主な出張であった。それまでは四国八十八カ所霊場巡りなどをしてきたのが、この本をきっかけに駅舎巡りを始めることとした。金曜日及び土曜日の夜は四国に泊まった。まずは駅間距離の短い伊予鉄市内電車や伊予鉄郊外電車などは歩いて巡った。駅間距離の比較的



長いJR四国等の駅舎については土日と2日しかない時間を有効活用すべく事前にコースや距離をチェックし、四国各所にあるレンタサイクルやホテルの自転車で計画的に巡り、1年後には四国の四県のうち愛媛県、香川県、徳島県の300を超える駅舎を撮影することができた。また、数回の東京出張や九州沖縄支部のスライドコンファレンスでは山手線や九州各地の駅舎も少し撮影することができた。しかし駅舎巡りを始めて約1年後には、大学を離れ市中病院へ移動となり、さらにはコロナウイルスの蔓延で各種学会やカンファレンスがオンライン化され、出張がなくなり楽しみを奪われてしまった。その後は、密にならないように自宅や職場から行ける福岡県内の駅舎を巡り、さらには出張とは関係なく近隣の佐賀県、長崎県、大分県、熊本県そして沖縄県を制覇して現在に至っている。

今後の目標は、鹿児島県、宮崎県と高知県で九州四国を制覇して山口県へ撮影をしていきたい。遠城寺先生は亡くなる5年前の2005年の段階で当時のJRの88.6%を撮影したとの記載があり、JRのみだと17.2%の私はまだまだだが、再び学会に

も参加できるようになれば少しでも近づいていけるのではないかと考えている。

出張先の楽しみ

熊本大学病院病理診断科 三上 芳喜

生来転勤族で移動・異動は多く、私はそれを楽しんでいる。出張も同様である。現職のベースは九州熊本であるため、それは以前にも増して格段に増えた。そうした出張での楽しみは色々があるが、最も関心があるのは“何を何処で飲んで食べるか”だ。特に未踏の地に向く際は、国内外問わずGoogleチェックするのは【Craft Beer】、【Wine】、【Bar】、【Pub】である。このとき長年培われた“良さげな店”を見つけ出す鼻を利かせる。過去、若かりし頃には新橋でボラれたりするなどの失敗も経験しているが、年齢60歳の還暦を前にしてその鼻は益々研ぎ澄まされている。パッと見小洒落た店は選ばない。クライテリアは看板ないし暖簾やエントランスから醸し出される年輪と拘り、照明の温度感だ。そうして見つけた店は私にとっては宝となり、彼の地を再訪した際は毎度顔を出すことになる。事前サーチなしに、投宿したホテルの周辺エリアを闊歩しながら探すのも楽しい。因みに私は大きめのブルゴーニュグラスを燻らせながらワインを飲んでいるようなイメージを持たれがちなのだが、それは誤解で、どちらかという吉田類の『居酒屋放浪記』に出てくるような老舗系と場末系が好きだ。勿論守備範囲は狭くないが、学会終了後に神田や新橋のガード下でホッピーを酌み交わしながら病理談議に花を咲かせて旧交を温めるのも楽しい。

さて、この原稿の依頼を受けてふと思えば、懐かしい店が数多く思い出される。そのような中で特に印象に残っている店が2つ。一つは宮崎県えびの市にある京町温泉の居酒屋、もう一つはあのチャールズ・ディケンズやコナン・ドイルが通ったとされるロンドン市内の老舗パブである。京町温泉はいわゆる島津氏と伊東氏が激戦を繰り広げ、近くの川が血で染まったという木崎原古戦場に近い温泉街で、その中心に位置する京町銀天街はショー・パブなどのパブルの残骸・廃墟が点在し、兵どもが夢の跡とでもいおうか、何となく色っぽさと退廃感が入り混じる不思議な雰囲気が漂う。そこで講演を終えて夕食までの短い時間の間にぶらりと入った居酒屋でいただいたおでんと大ジョッキのサッポロ黒ラベルがとてつもなく美味かった。ロンドンの老舗パブの名はジ・オールド・チェシャー・チーズ Ye Olde Cheshire Cheese。創業はなんと1667年。このパブはいくつかあるバーの複合体で、つくりはまるで迷路のようだ。フツーのブリティッシュ・パブ、ビクトリア朝時代の雰囲気が残る authentic なバーのほか、修道院の地下室のような隠れ家風のホールがあり、全く異なる雰囲気のフロアで呑むことができる。客層は背広とネクタイでキメた紳士から地元の爺さんまで幅広い。パイントグラスのビールを手にして、そんな爺さんたちがまるで江戸っ子のようにくだをまきながら、通りがかりの

観光客夫婦を交えて盛り上がるテーブルを共有させていただいたのは、私にとっては大きな喜びであった。ちょうど太陽が沈み薄暗くなった頃に灯る Ye Olde Cheshire Cheese のライトが美しかった。一度是非。



Ye Olde Cheshire Cheese にて (2013年6月、ロンドン)

== 支部報告 ==

-- 北海道支部 -----

北海道支部会報編集委員 田中 敏

学術活動報告

2023年11月18日(土)、第203回日本病理学会北海道支部学術集会(標本交見会)が松野吉宏先生(北海道大学病院病理部)のお世話で、北海道大学学術交流会館第一会議室で開催されました。

症例検討は以下の通りです。

症例検討

番号/発表者(と共同演者)/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/臓器名(主なもの)/臨床診断/発表者の病理診断

23-10: 牧田啓史¹、岡崎ななせ^{1,3}、青山怜史¹、片山優子¹、山口貴子¹、仲川心平¹、杉戸悠紀²、三浪圭太²、辻 隆裕¹ | 市立札幌病院病理診断科、²市立札幌病院泌尿器科、³北海道大学病院病理部・病理診断科/50歳代/女性/腎盂/生検での診断が難しかった腎盂腫瘍の一例/

Mixed epithelial and stromal tumor (MEST)

23-11: 村上太郎、秋元真祐子、高桑康成/NTT 東日本札幌病院臨床検査科/30歳代/男性/腎/

診断に苦慮した Oncocytic tumor の一例/

Other oncocytic tumor of the kidney

23-12: 加藤憲志郎¹、岡田宏美¹、松本隆児²、宮石 陸¹、大川絃弥¹、岡崎ななせ¹、中里信一¹、若林健人¹、清水亜衣¹、大塚紀幸¹、外丸詩野¹、都築豊徳³、松野吉宏¹ | 北海道大学病院病理部・病理診断科、²北海道大学病院泌尿器科、³愛知医科大学医学部病理診断学講座/40歳代/男性/前立腺/急性細菌性前立腺炎として発症した前立腺腫瘍の一例/

Prostatic stromal sarcoma

また同交見会にて、特別講演が行われました。

演題: WHO 第5版の基本概念と前立腺癌病理

講師: 愛知医科大学医学部病理診断学講座

都築 豊徳 先生

座長: 北海道大学病院病理診断科

松野 吉宏 先生

-- 東北支部 -----

東北支部会報編集委員 長谷川 剛

1. 第96回日本病理学会東北・新潟支部学術集会在、2023年7月29、30日(土、日)に弘前大学大学院医学研究科病理診断学講座黒瀬顕教授を会長として、弘前大学医学部健康未来イノベーションセンターを会場として行われた。

特別講演2題、教育講演1題、一般演題13題および特別企画4題やランチョンセミナーを含めたプログラムであった。種々に会長の“こだわり”が込められた現地開催の会で、久しぶりの会員懇親会では、学生たちの玄人はだしの津軽三味線・民謡も楽しんだ。

【ランチョンセミナー】

埼玉県立がんセンター病理診断科 がんゲノムセンター長 元井紀子先生

「肺癌の遺伝子パネル検査: CGPの役割とは?」

【特別講演1】

国立がん研究センター中央病院 病理診断科 吉田朗彦先生

「タイムトラベル—腫瘍の脱分化をいかに見破るか—」

【特別講演2】

福島県立医科大学 病理病態診断学講座 教授 橋本優子先生

「血液リンパ系腫瘍 新 WHO 分類をめぐって」

【教育講演】

新潟大学医学部分子病理学 准教授 高田尚良先生

「リンパ腫病理研究と臨床への応用」

【特別企画 若い病理医に伝えたい貴重な症例/出来事】

八戸赤十字病院 笹生俊一先生

「直腸の多発カルチノイド腫瘍: カルチノイド腫瘍の由来を示唆する例」

PCL 盛岡病理細胞診センター 方山揚誠先生

「PCL と CAP (College of American Pathologists) の施設認定」

日本病理研究所 立野絃雄

「胃や大腸の超高分化型癌の私なりの診断基準に付いて/50年に及ぶこれまでの病理医人生を振り返る」

いわき市医療センター病理診断センター 浅野重之

「水銀ガス (Hg0 上付き) 中毒の3剖検例をきっかけにして、世界史と日本史を学んだ」

【一般演題】(演者所属および筆頭演者、演題名：演者診断の順)

1. 秋田大学大学院医学系研究科 器官病態学講座 月田 光、他
睪腫瘍の1例：PEComa, inflammatory subtype
2. 岩手医科大学病理診断学講座 医学部医学科5年 都鳥未来也、他
特徴的な形態を示す肝細胞癌の1例：Macro-trabecular-massive HCC
3. 東北公済病院病理診断科 渡辺みか、他
肝細胞癌との鑑別を要した肝血管筋脂肪腫の1例：
Hepatic angiomyolipoma, epithelioid
4. 秋田大学大学院医学系研究科器官病態学講座 高橋彩菜、他
外陰部皮下腫瘍の1例：Myoepithelioma-like tumor of the vulvar region
5. 弘前大学医学部医学科6年 田中友浩、他
脳腫瘍 WHO2021 分類に新規採用されたてんかん原性脳腫瘍：
Polymorphous low-grade neuroepithelial tumor of the young
6. 弘前大学医学部医学科6年 太田理瑚、他
心臓に生じた血管に富む腫瘍：Angioleiomyoma of the atrium
7. 秋田大学医学部付属病院 病理診断科・病理部 廣嶋優子、他
後縦隔腫瘍の1例：PEComa
8. 岩手医科大学医学部 病理診断学講座 伊藤一洋、他
胃の1例：胃幽門腺腺腫
9. 東北大学病院病理部 堀さつき、他
同時性・異時性に多発した若年女性の胃腫瘍の1例：
GIST, KIT-negative, SDH deficient
10. 仙台赤十字病院病理診断科 長沼 廣、他
口蓋腫瘍の1例：
CRCT1-MAML2 融合遺伝子 TALP を伴う明細胞性粘表皮癌
11. 仙台市立病院病理診断科 渋谷里絵、他
頸部リンパ節に転移した原発不明癌の1例：
Metastases of the gastric cancer
12. 福島県立医科大学医学部病理病態診断学講座 関根 黎、他
口蓋扁桃腫瘍の1例：Mature plasmacytoid dendritic cell proliferation
association with myeloid neoplasm/Myeloid sarcoma
13. 公立置賜総合病院病理科 前田邦彦、他
診断に苦慮したリンパ節病変：Follicular lymphoma/bcl-6 translocation

2. 日本病理学会東北・新潟支部第11回病理夏の学校が久しぶりに企画された。福島県立医科大学病理病態診断学講座橋本優子教授を実行委員長として、2023年8月19日(土)に、福島県立医科大学福島駅前キャンパス現地とwebとのハイブリッド開催だった。支部内8大学の医学部学生や研修医、若手病理医などを参加者として、“病理夏の学校 in 福島～病理を知らないきょうもったいない～”をテーマに、特別講演や病理専門医への課程、若手病理医からのメッセージの他、CPC 発表・討論などで、有意義な会を楽しんだ。

3. 第97回日本病理学会東北支部学術集会在、2024年2月17、18日(土、日)、東北大学医学部長陵会館を会場として、古川徹支部長のもと、現地開催で行われたTNPCに端を発したJSP-TN 50周年記念大会を兼ね、東北・新潟7県からの発表や祝賀会を含めて盛会であった。

【特別講演1】

関西医科大学附属光免疫医学研究所 腫瘍病理学部門
教授 近藤英作 先生

「病理組織のみを用いた腫瘍医学研究～組織切片のできるアプローチ～」

【特別講演2】

弘前大学大学院 病理生命科学講座 教授 鬼島 宏 先生
「胆道疾患の病理」

【JSP-TN 50周年記念学術集会】

口演 I：青森県 座長 水上浩哉 (弘前大学)

1) 弘前大学大学院病理生命科学 後藤慎太郎

「青森県の病理の歩み、現状」

2) 弘前大学大学院保健学研究科生体検査科学領域 加藤哲子

「弘前大学病理学講座の研究紹介」

口演 II：秋田県 座長 南條 博 (秋田大学)

1) 市立秋田総合病院病理診断科 堤嶋真人

「45回 TNPC JSP-TN 主催の思い出」

2) 秋田大学大学院分子病態学・腫瘍病態学 大森泰文

「細胞内コネクシンによるストレス適応応答とがん幹細胞自己複製」

口演 III：岩手県 座長 柳川直樹 (岩手大学)

1) 岩手県立中央病院病理診断センター 西谷匡央

「脂肪性肝疾患と肥満症 NAFLD/NASH の病名変更に関連して」

2) 総合南東北病院 病理診断学センター 菅井 有

「日本病理学会東北支部会支部長としての思い出と私の近況」

口演 IV：山形県 座長 二口 充 (山形大学)

1) 山形大学医学部病理学講座 二口 充

「次世代の病理学をめざして」

口演 V：宮城県 座長 藤島史喜 (東北大学)

1) 仙台オープン病院病理診断科 澤井高志

「TNPC から JSP-TN への変革」

2) 東北公済病院病理診断科 渡辺みか

「JSP-TN 事務局としての13年間を振り返って」

口演 VI：福島県 座長 橋本優子 (福島大学)

1) 福島県立医科大学基礎病理学講座 杉本幸太郎

「乳癌における細胞間接着分子 CLDN の分子機能と臨床病理学的意義」

2) 福島県立医科大学病理病態診断学 橋本優子

「2011年以降の福島県小児甲状腺癌について」

口演 VII：新潟県 座長 長谷川 剛 (新潟大学)

1) 新潟県立がんセンター新潟病院 病理部/病理診断科 川崎 隆

「53から17へ」

2) 新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院 病理診断科 長谷川 剛

「発表演題から振り返る東北・新潟支部学術集会 2000-2023年」

【一般演題】(演者所属および筆頭演者、演題名：演者診断の順)

1. 東北大学病態病理学 村上奎吾、他

肝腫瘍の1例：

Hepatocellular carcinoma, with angiosarcoma-like dedifferentiation

2. 岩手医科大学病理診断学講座 佐藤綾香、他 (最優秀発表演題)

後腹膜嚢胞の1例：

Primary retroperitoneal mucinous tumor, with mural nodule/
anaplastic carcinoma

3. 東北大学大学院病理診断学 井上千裕、他

卵巣に発生した同時性多発性腫瘍の1例：

Steroid tumor of the ovary, with malignant composite tumor

4. 南東北病院病理診断科 上杉憲幸、他

小腸腫瘍の1例：Histiocytic sarcoma

5. 弘前大学医学部医学科 4年 永田恵未、他 (学生奨励賞)
両側下腿皮膚腫瘍の1例:
Calciophylaxis/Classical Hodgkin lymphoma, mixed cellularity
6. 魚沼基幹病院歯科研修医 中田晴香、他
耳鼻科領域の悪性腫瘍が疑われた1例:
Syndrome associated schwannomatosis
7. 弘前大学大学院分子病態病理学 櫛引英恵、他
耳下腺腫瘍の1例: Epithelioid angiosarcoma
8. 福島県立医科大学病理病態診断学
ノーシャリナ・ビンティ・シェイクスピア、他
甲状腺腫大を合併した肺高血圧症の1剖検例:
Pulmonary veno-occlusive disease/Hyperthyroidism (優秀発表演題)

--- 関東支部 -----

関東支部会報編集委員 林 雄一郎

開催報告

第101回日本病理学会関東支部学術集会在下記の内容で開催されました。

日 時: 2024年3月9日(土) 12:00~17:00
会 場: 東京医科大学病院臨床講堂
(現地およびWebのハイブリッド形式)
世話人: 長尾俊孝先生(東京医科大学人体病理学分野)

特別講演1

- 「AIによるがん治療後の再発予測—腫瘍形態学におけるAIの応用—」
演者: 黒田雅彦先生(東京医科大学分子病理学分野)
座長: 牛久哲男先生(東京大学大学院人体病理学・病理診断学)
- ミニレクチャー1
「ICCRと日本病理学会」
演者: 渡邊麗子先生(聖マリアンナ医科大学病理学)
座長: 藤井誠志先生(横浜市立大学大学院医学研究科・医学部分子病理学)

一般演題1

- 「耳介後部に生じたケロイド様の紅色隆起性皮疹」
<血液病理シリーズ8>
演者: 長瀬駿介先生(東海大学医学部基盤診療学系病理診断学)
座長: 池田純一郎先生(千葉大学大学院医学研究院診断病理学)

ミニレクチャー2

- 「剖検における心筋梗塞死が疑われた場合の対処法および動脈硬化プラーク不安定化の指標となる平滑筋未熟性(脱分化)」
演者: 倉田 厚先生(東京女子医科大学人体病理学・病態神経科学分野)
座長: 羽尾裕之先生(日本大学医学部人体病理学分野)

一般演題2

- 「上部尿路に発生した絨毛腺腫由来腺癌の1例」
演者: 萬 昂士先生(東京医科大学人体病理学分野)
座長: 長嶋洋治先生(東京女子医科大学 病理診断学分野)

一般演題3

- 「口底部腫瘍の1例」
演者: 榎本 愛先生(東京医科大学人体病理学分野)
座長: 長嶋洋治先生(東京女子医科大学 病理診断学分野)

特別講演2:

- 「遺伝子解析により深化する唾液腺腫瘍分類」
演者: 中黒匡人先生(名古屋大学医学部附属病院病理部)
座長: 佐藤由紀子先生(がん研究会有明病院病理部)

--- 中部支部 -----

中部支部会報編集委員 浦野 誠

【第91回日本病理学会中部支部交見会 優秀演題賞受賞者】

学術奨励賞: 富山大学附属病院 釜田みのり(富山大学学部生)
岐阜大学大学院医学系研究科 腫瘍病理学
市橋昂樹
優秀発表賞: 富山大学法医学講座 一萬田正二郎

次回学術集会予定

第92回日本病理学会中部支部交見会
日 時: 2024年7月20日(土)
場 所: 富山大学ポルフェアートとやま
世話人: 平林健一先生(富山大学)

第93回日本病理学会中部支部交見会

日 時: 2024年12月14日(土)
場 所: 藤田医科大学ホール
世話人: 加藤省一先生(藤田医科大学)

第28回日本病理学会中部支部スライドセミナー

日 時: 2025年3月15日(土)
場 所: 名古屋大学医学部講堂
世話人: 加留部謙之輔先生
(名古屋大学臓器病態診断学分野)
テーマ: 悪性リンパ腫

東海病理医会 検討症例報告

- 第397回
(2023年12月16日 参加者12名 於: 藤田医科大学)
症例番号/病院名/病理医/年齢(才代)/性/臓器/臨床診断/病理組織学的診断
5738/藤田医大ばんだね/浦野 誠/60/女/脊髄/神経鞘腫疑い/
Myxopapillary ependymoma
5739/藤田医大/一安泰佑/30/男/後腹膜/後腹膜腫瘍/
Dedifferentiated liposarcoma, suspected
5740/諏訪中央総合/浅野功治/90/女/十二指腸/メラノーマ/シス/
Duodenal hemosiderosis
5741/鈴鹿中央総合/村田哲也/50/男/扁桃/悪性リンパ腫疑い/
Mantle cell lymphoma
5742/藤田医大岡崎医療セ/中川 満/50/女/甲状腺/甲状腺癌/
Papillary carcinoma with anaplastic transformation
5743/藤田医大岡崎医療セ/中川 満/40/女/耳介/耳介軟骨膜炎/
Relapsing polychondritis
5744/トヨタ記念/近藤由佳/30/男/肺/肺腫瘍/Hamartoma, suspected
5745/藤田医大岡崎医療セ/西島亜紀/30/女/椎体/動脈瘤様骨嚢腫/
Osteoblastoma with aneurysmal bone cyst change

第 398 回

(2024 年 1 月 13 日 参加者 17 名 於：藤田医科大学)

- 5746/トヨタ記念/近藤由佳/50/女/膣/子宮頸癌疑い/
Clear cell carcinoma of the vagina
- 5747/藤田医科大学/山田勢至/50/女/脳/第三脳室腫瘍/Chordoid glioma
- 5748/大同/小島伊織/20/男/精巣/精巣腫瘍/Epidermoid cyst
- 5749/大同/小島伊織/60/女/乳腺/乳腺腫瘍/Ductal adenoma
- 5750/大同/小島伊織/60/女/乳腺/乳癌/Mucocele-like lesion
- 5751/中部国際医療セ/杉山誠治/50/女/唾液腺/顎下腺腫瘍/
Adenoid cystic carcinoma
- 5752/鈴鹿中央総合/村田哲也/70/男/骨髄/悪性リンパ腫疑い/
B lymphoblastic lymphoma
- 5753/岐阜大/酒々井夏子/30/女/口蓋/多形腺腫/Myoepithelioma
- 5754/藤田医大岡崎医療セ/中川 満/50/女/胃/萎縮性胃炎/
Lanthanum deposition
- 5755/伊勢中央/野村宣徳/70/男/皮膚/皮膚腫瘍/Inverted follicular keratosis

第 399 回

(2024 年 2 月 17 日 参加者 11 名 於：藤田医科大学)

- 5756/蒲郡市民/浦野 誠/80/女/軟部/外陰腫瘍/
Epithelioid sarcoma, proximal type
- 5757/藤田医大/山田勢至/小児/女/卵巣/卵巣腫瘍/
Sertoli Leydig cell tumor, retiform type
- 5758/諏訪中央総合/浅野功治/70/女/椎骨/転移性脊椎腫瘍/
Metastasis of meningioma, grade 1
- 5759/鈴鹿中央総合/村田哲也/70/女/胃/悪性リンパ腫疑い/
Gastric invasion of adult T cell leukemia
- 5760/鈴鹿中央総合/村田哲也/40/男/唾液腺/耳下腺腫瘍/
Mucoepidermoid carcinoma, macrocystic type
- 5761/大同/小島伊織/60/女/皮膚/ベーチェット病疑い/
Cosistent with Behçet's disease
- 5762/大同/堀部良宗/50/女/胃/神経内分泌癌/
NET, G1 with ossification
- 5763/岐阜大/酒々井夏子/60/男/肺/カルチノイド/
Typical carcinoid tumor with necrosis
- 5764/中部国際医療セ/杉山誠治/70/女/松果体/松果体腫瘍/
Pineocytoma, grade 1
- 5765/藤田医大岡崎医療セ/中川 満/70/女/子宮/変性筋腫疑い/
Leiomyoma with myxoid change
- 5766/藤田医大岡崎医療セ/西島亜紀/20/女/縦隔/悪性リンパ腫疑い/
Mediastinal gray zone lymphoma

第 400 回

(2024 年 3 月 9 日 参加者 29 名 於：藤田医科大学)

- 5767/藤田医大ばんだね/浦野 誠/20/女/腭頭部腫瘍/
Solid pseudopapillary neoplasm with necrosis
- 5768/藤田医大/一安泰祐/40/女/肝/肝腫瘍/Focal nodular hyperplasia
- 5769/藤田医大/山田勢至/50/女/前縦隔/前縦隔腫瘍/B2 thymoma with necrosis
- 5770/諏訪中央総合/浅野功治/90/男/肝/原発性肝癌/
Lymphocyte-rich hepatocellular carcinoma in MASH
- 5771/トヨタ記念/近藤由佳/40/女/肝/肝腫瘍/Focal nodular hyperplasia
- 5772/トヨタ記念/島 寛太/30/男/肺/肺異常陰影/
Pulmonary placental transmigration

- 5773/大同/小島伊織/50/男/精巣/精巣腫瘍/Leydig cell tumor
- 5774/鈴鹿中央総合/村田哲也/50/女/皮膚/粉瘤疑い/
Primary cutaneous diffuse large B cell lymphoma, leg type
- 5775/鈴鹿中央総合/村田哲也/70/男/皮膚/結節性紅斑疑い/
Primary cutaneous diffuse large B cell lymphoma, leg type
- 5776/浜松赤十字/安見和彦/70/女/皮膚/化膿性肉芽腫/Hidradenoma
- 5777/藤田医大岡崎医療セ/西島亜紀/80/男/肺/肺腫瘍/Rheumatoid vasculitis

東海病理医会（ワカロウ会）400 回を迎えて

浦野 誠（藤田医科大学ばんだね病院 病理診断科）

2024 年 3 月 9 日、東海病理医会（ワカロウ会）は開催第 400 回を迎えることができました（図 1）。これまで積み重ねた症例数は 5777 例にのびります。

当日はいつものとおり症例検討を行った後、村田哲也先生（鈴鹿中央総合病院病理診断科・日本病理学会中部支部長）による講演が行われ、その歴史を振り返り、会の意義について熱く語っていただきました。

東海病理医会は藤田保健衛生大学（当時）の黒田 誠先生が中心となって中部支部の診断病理医が集い、疑問症例の相談や検討、典型症例・希少症例の共有を目的に始まった月例の会です。第 1 回は 1989 年 6 月に開催され、100 回を 1997 年 9 月、200 回を 2006 年 1 月、300 回を 2014 年 5 月に、そしてこの度の第 400 回と約 35 年間継続してきました（図 2）。私は 95 回から参加することになり、2020 年 7 月からは黒田先生を引き継いで村田先生とともに会の運営に当たらせていただいています。

近年は COVID 感染でしばしば中断を余儀なくされましたが、熱心にご参加くださる先生方の協力のおかげで地道に継続がなされています。検討した全症例の記録は「診断病理」の専門医部会報中部支部のページに掲載しています。

東海病理医会は学会や研究会の様な症例のお披露目の場とは異なり、その大きな目的は目下の悩ましい症例について気軽に意見を聞けること、病理専攻医の専門医試験教育やプレゼンテーションの修練、そして参加者間の交流と情報交換です。今現在トピックになっている疾患概念についての学びもたくさんあります。これからも皆様のご協力のもとに東海地区の診断病理医が気楽に症例を持ち寄る会として末永く継続されることを切に望みます。

村田先生、藤田医科大学の病理関係者に加えいつもご参加くださる先生方（敬称略）：小島伊織（大同病院）、岩田洋介（大垣市民病院）、黒川 景（愛知県立大学）、浅野功治（諏訪中央総合病院）、宮崎龍彦、酒々井夏子、小林一博（岐阜大学）、杉山誠治（中部国際医療センター）に深く感謝いたします。

本会は特段の準備は要らずどなたでも参加可能です。最低限 HE 標本 1 枚と病理依頼書をお持ちになり、月 1 度の土曜日午後 1 時～午後 4 時にご参加ください。開催日の案内は中部支部ホームページをご覧ください。

今後とも本会をどうかよろしくお申し込み申し上げます。



図1：第400回東海病理医学会（2024年3月9日）での集合写真

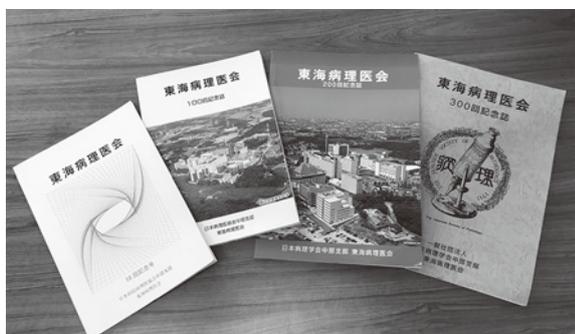


図2：50回・100回・200回・300回記念誌

----- 近畿支部 -----

近畿支部会報編集委員 竹内 康英

I. 活動報告

A) 日本病理学会近畿支部第103回学術集会

日本病理学会近畿支部第103回学術集会が下記の内容で開催されました。検討症例、画像等につきましては近畿支部ホームページ (<http://jspk.umin.jp/>) にて閲覧可能です。

アカウント・パスワードの必要な方は近畿支部事務局 (kinpatho@kuhp.kyoto-u.ac.jp) までお尋ね下さい。

開催日：令和5年12月16日（土）

世話人：京都大学 羽賀博典先生

モデレーター：高槻病院病理診断科 伊倉義弘先生

テーマ：肝臓（非腫瘍）

会場：社会医療法人愛仁会 愛仁会看護助産専門学校

9:30～受付開始・開場

10:00～開会の挨拶：伊倉義弘先生（高槻病院病理診断科）

10:10～10:30

症例検討 座長：狛 雄一朗先生

（神戸大学大学院医学研究科病理学講座病理学）

症例検討 1010『重層性のTTF-1陽性末梢肺腫瘍』

杉本曉彦先生、他（滋賀県立総合病院病理診断科）

10:30～10:50

症例検討 1011『若年男性に見られた気管腫瘍の一例』

坂井田美穂先生、他（大阪市立総合医療センター病理診断科）

10:50～11:10

症例検討 座長：山田洋介先生（京都大学医学部附属病院病理診断科）

症例検討 1012『約一年遷延する胃部膨満感を契機に肝生検が行われた一例』

塚本修一先生、他（加古川中央市民病院病理診断科・神戸大学大学院医学研究科病理学講座病理学）

11:10～11:30

症例検討 1013『左手部石灰化腫瘍の一例』

福井彩香先生、他（神戸市立西神戸医療センター病理診断科）

11:30～13:00 休憩

（※11:40～12:40 幹事会開催）

13:00～13:20

<人体病理学学術奨励賞 受賞講演>

座長：羽賀博典先生（京都大学医学部附属病院病理診断科）

『Deep Learning Analysis of Histologic Images from Intestinal Specimen Reveals Adipocyte Shrinkage and Mast Cell Infiltration to Predict Postoperative Crohn Disease』

清川博貴先生

（大阪大学大学院医学系研究科病態病理学講座・医学部附属病院病理部）

13:20～14:20

<特別講演1>

座長：伊藤智雄先生

（神戸大学大学院医学研究科病理診断学・医学部附属病院病理診断科）

『急性肝炎の病理—薬物性肝障害と鑑別疾患—』

原田憲一先生（金沢大学医薬保健研究域医学系人体病理学）

14:20～14:30 休憩

14:30～15:30

<特別講演2>

座長：井上 健先生（大阪市立総合医療センター病理診断科）

『私の肝星細胞研究30年を振り返って』

河田則文先生

（大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵病態内科学・医学部附属病院

肝胆膵内科）

15:30～15:40 休憩

15:40～16:10

<教育講演1>

座長：羽賀博典先生（京都大学医学部附属病院病理診断科）

『脂肪性肝疾患の病理：診断に際しての注意点』

伊倉義弘先生（高槻病院病理診断科）

16:10～16:40

<教育講演2>

座長：伊倉義弘先生（高槻病院病理診断科）

『肝臓針生検で用いる特殊染色と免疫染色マーカー：

正常構造・原発性腫瘍・転移性腫瘍の認識のために』

羽賀博典先生（京都大学医学部附属病院 病理診断科）

16:40～16:50 閉会の挨拶、次回開催案内 羽賀博典先生（京都大学）

B) 日本病理学会近畿支部第104回学術集会

日本病理学会近畿支部第104回学術集会が下記の内容で開催されました。検討症例、画像等につきましては近畿支部ホームページ (<http://jspk.umin.jp/>) にて閲覧可能です。

アカウント・パスワードの必要な方は近畿支部事務局 (kinpatho@kuhp.kyoto-u.ac.jp) までお尋ね下さい。

開催日：令和6年2月17日（土）
世話人：大阪市立総合医療センター 井上 健先生
モデレーター：京都大学医学部附属病院 竹内康英先生
テーマ：分子病理
会場：大阪市立総合医療センターさくらホール

9:45～ 受付開始・開場
10:20～開会の挨拶：竹内康英先生（京都大学医学部附属病院）
10:30～10:50
症例検討 座長：今井幸弘先生（加古川中央市民病院 病理診断科）
症例検討 1014『喉頭腫瘍の一例』
中嶋七海先生、他（日本生命病院病理診断科）
10:50～11:10
症例検討 1015『乳腺腫瘍の一例』
坂井田美穂先生、他（大阪市立総合医療センター病理診断科）
11:10～11:30
症例検討 1016『足趾腫瘍の一例』
西嶋稜平先生、他（京都大学医学部附属病院 病理診断科）
11:30～13:00 休憩
（※11:45～12:45 幹事会開催）
13:00～14:00
<特別講演 1>
座長：羽賀博典先生（京都大学医学部附属病院病理診断科）
『日常臨床で役立つ分子病理学的知識：脳神経膠腫の統合分子病理診断』
谷本昭英先生（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科病理学分野）
14:00～14:10 休憩
14:10～15:10
<特別講演 2>
座長：森井英一先生（大阪大学大学院医学系研究科病態病理学講座）
『婦人科領域の分子病理学的知見を総括する』
前田大地先生（金沢大学医薬保健研究域医学系分子細胞病理学）
15:10～15:25 休憩
15:25～16:25
<特別講演 3>
座長：竹内康英先生（京都大学医学部附属病院病理診断科）
『がん遺伝子パネル検査について感じていること
～内科医の視点から、病理の先生方への感謝と、お願いしたいこと～』
吉岡正博先生（京都大学医学部附属病院腫瘍内科）
16:25～16:40 閉会の挨拶、次回開催案内 羽賀博典先生（京都大学）

II. 今後の活動予定

第105回学術集会は現地開催を予定しております。専門医資格更新単位の発行を予定しています。参加登録方法などの詳細は近畿支部ホームページにて案内予定です。

第105回学術集会

開催日：2024年5月18日（土）
会場：大阪公立大学大学院医学研究科
大講義室（阿倍野キャンパス）
世話人：大阪公立大学 孝橋賢一先生

モデレーター：
村田晋一先生（和歌山県立医科大学人体病理学教室／
病理診断科）
足立 靖先生（恵心会京都綾部さくらホーム）
テーマ：甲状腺

詳しくは近畿支部ホームページをご参照ください。

--- 中国四国支部 -----

中国四国支部会報編集委員 水野 洋輔

A. 開催報告
第143回学術集会
日本病理学会中国四国支部第143回学術集会在下記の内容で開催されました。
発表スライドや投票結果は <https://plaza.umin.ac.jp/csp-kouhou/> でご覧ください。
開催日：令和6年2月3日（土）13:30～16:30
世話人：愛媛大学医学部 解析病理学
増本純也教授
開催形式：Web 開催（‘Cisco Webex Meetings’）

特別講演

「IgG4 関連疾患の診断と検査
—汎用自動分析装置用試薬開発への挑戦—」
信州大学医学部 病態解析診断学
上原剛准教授

演題番号/タイトル/出題者（所属）/出題者診断/最多投票診断
S2905/下顎骨腫瘍/永尾 瑠佳（徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔分子病態学分野）/Osteosarcoma, fibroblastic type, grade 2-3/ Osteosarcoma
S2906/右前腕皮下腫瘍/谷口 恒平（広島市立広島市民病院 病理診断科）/
Angiomatoid fibrous histiocytoma/ Angiomatoid fibrous histiocytoma
S2907/多発転移性腫瘍の一例/大野 輝之（愛媛大学医学部附属病院 病理診断科）/Epithelioid hemangioendothelioma/ Malignant melanoma
S2908/眼瞼部皮膚結節/森川紳之祐（松山市民病院 病理診断科）/
Tubular papillary adenoma/ Tubular adenoma
S2909/右臀部腫瘍/谷崎 友祐（徳島赤十字病院 病理診断科 初期研修医）/
Soft tissue perineurioma/ Low grade fibromyxoid sarcoma
S2910/肛門周囲腫瘍/園部 宏（福山医療センター 病理診断科）/
Accessory scrotum with lipoma/ Human tail
S2911/肺腫瘍/堀川 恭佑（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病理学（腫瘍病理/第二病理））/Pulmonary meningioma/ Meningioma
S2912/回盲部腫瘍/渡邊 俊介（徳島赤十字病院 病理診断科）/
Localized sarcomatoid peritoneal mesothelioma with lymphohistiocytoid feature/
Inflammatory myofibroblastic tumor
S2913/歯肉腫瘍/松澤 鎮史（徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔分子病態学分野）/Plasmablastic lymphoma/ Plasmablastic lymphoma
S2914/2年間経過観察後に脾摘出となった一例/谷脇 真潮（愛媛大学医学部附属病院病理診断科）/
Splenic B-cell lymphoma, suspicious of hairy cell leukemia/ B-cell neoplasms

B. 開催予定

第 144 回学術集会

日 時：令和 6 年 6 月 22 日（土）

世話人：高知大学医学部附属病院 病理診断科部
村上一郎 先生

開催形式：Webex 主体のハイブリッド形式

特別講演：病理領域別講習『知っておくべき胃底腺粘膜病変
の病理学的最新知見』
順天堂大学医学部人体病理病態学講座
八尾隆史 教授

胃底腺型腺癌、胃底腺粘膜型腺癌、ラズベリー様腺癌／腺腫
など *Helicobacter pylori* 陰性の胃底腺粘膜に様々な新興腫瘍が
出現するようになり、診断・分類に苦勞することがしばしばで、
さらに、胃底腺粘膜に発生する PPI 関連ポリープや自己免疫性
胃炎（胃底腺粘膜の萎縮を示す）の早期病変なども注目されて
おり、胃底腺粘膜病変の最新知見を知っておく必要があると考
えられ、上記のタイトルのご講演をお願いしています。（演者
は現地（高知）にて講演予定）

九州沖縄支部

九州沖縄支部会報編集委員 立石 悠基

1. 活動報告

1) 第 397 回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のと
うに開催されました。

日 時：2024 年 1 月 20 日（土）13:00～

場 所：久留米大学旭町キャンパス 筑水会館

世話人：久留米大学医学部病理学講座

教授 大島孝一先生

教授 矢野博久先生

教授 秋葉 純先生

参加数：114 名

第 397 回九州・沖縄スライドコンファレンス

臨床診断あるいは発表演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/
出題者診断/投票最多診断

座長：高野 桂（福岡県済生会福岡総合病院）

1. 前縦隔腫瘍/村上未樹/鹿児島大学病理学分野/50 代男性/
Low-grade papillary adenocarcinoma and type A thymoma/
Low-grade papillary adenocarcinoma and type A thymoma
2. 心臓内腫瘍/貝森峻-小山雄三/大分大学医学部診断病理学講座-大分市
医師会立アルメイダ病院病理診断科/80 代男性/
Cardiac myxoma with malignant transformation/
Cardiac myxoma
3. 大腸/吉山貴之/九州大学形態機能病理学/20 代女性/
Cryptosporidiosis/
Cryptosporidiosis

座長：黒濱大和（長崎大学原研病理）

4. 大腸腫瘍/中園裕一/別府医療センター/60 代女性/
Undifferentiated carcinoma, Carcinoma with sarcomatoid components/
Malignant lymphoma
5. 肝/三原勇太郎/久留米大学医学部病理学講座/日齢 17 男性/
Niemann-Pick disease type C/
Progressive familial intrahepatic cholestasis (PFIC)
6. 肝病変/甲斐敬太/佐賀大学医学部付属病院病理部・病理診断科/70 代
男性/
Portal biliopathy/
Hamartoma

座長：水落伸治（社会保険田川病院）

7. 乳腺腫瘍/赤嶺舜/九州大学形態機能病理/60 代男性/
Myofibroblastoma/
Myofibroblastoma
8. 右陰嚢腫瘍/古賀裕/九州がんセンター病理診断科/70 代男性/
Epithelioid mesothelioma, high-grade, with CDKN2A homozygous deletion/
Mesothelioma

座長：大園一隆（熊本総合病院）

9. 子宮広間膜腫瘍/長安真由美/都城医療センター/80 代女性/
Malignant solitary fibrous tumor/
Malignant/Dedifferentiated solitary fibrous tumor/hemangiopericytoma
 10. 副腎腫瘍/田中一仁/熊本大学病院 病理診断科/30 代女性/
Adrenocortical adenoma partially myxoid change/
Adrenocortical adenoma
 11. 副腎病変/峯島弘/熊本大学病院 病理診断科/60 代男性/
Mesothelial cyst with mullerian metaplasia/
Adrenal cyst
- 座長：中山正道（久留米大学病理学講座）
12. 腹部腫瘍/鳥尾義也/県立延岡病院病理診断科/60 代女性/
Lymphangioliomyomatosis/
Lymphangioliomyomatosis PEComa
 13. 外陰病変/横尾貴保/熊本赤十字病院病理診断科/70 代女性/
HPV-independent, p53-wild-type, verruciform acanthotic vulvar intraepi-
thelial neoplasia/
Verrucous carcinoma
 14. 背部皮膚腫瘍/松田亜依/福岡大学医学部病理学教室/70 代男性/
Adenoid cystic carcinoma/
Adenoid cystic carcinoma

第 397 回九州・沖縄スライドコンファレンスと同日に学術講
演が下記のように開催されました。

学術講演

国立循環器病研究センター 病理部部长 畠山金太先生
「心血管疾患の病理」

座長：済生会福岡総合病院病理診断科 加藤誠也先生

2) 第 398 回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日 時：2024 年 3 月 16 日（土）13：00～

場 所：Web 開催（Webex meetings 使用）

世話人：大分県立病院 臨床検査科病理部 ト部省悟先生

参加数：160 名

第 398 回九州・沖縄スライドコンファレンス

臨床診断あるいは発表演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別
出題者診断/投票最多診断

座長：小山雄三（大分市医師会立アルメイダ病院）

2. 口蓋腫瘍/真子知美/九州大学形態機能病理学/70 代女性/
Myoepithelial carcinoma /
Polymorphous adenocarcinoma
3. 前縦隔腫瘍/福島剛/宮崎大学医学部病理学講座 腫瘍・再生病態学分野/70 代女性/
Thymoma “micronodular thymoma with lymphoid stroma” and “type A thymoma (with a pseudoglandular pattern)”/
Mixed type A thymoma and micronodular thymoma with lymphoid stroma
座長：中園裕一（別府医療センター）
4. 肺腫瘍/名和田彩/産業医科大学医学部第 1 病理学/70 代女性/
Sclerosing pneumocytoma/
Plasma cell neoplasm
5. 腎盂腫瘍/増田正憲/佐賀県医療センター好生館/70 代男性/
Invasive urothelial carcinoma, sarcomatoid variant (Osteosarcoma component) /
Sarcomatoid urothelial carcinoma
6. 子宮腫瘍/小山雄三/大分市医師会立アルメイダ病院/50 代女性/
Plexiform tumorlet/
Uterine tumors resembling ovarian sex cord tumor
座長：西田陽登（大分大学医学部診断病理学講座）
7. 造血器腫瘍/野口絢嗣/鹿児島大学病理学分野/80 代男性/
Plasma cell myeloma (IgA, kappa type) with crystal storing histiocytosis/
Crystal storing histiocytosis
8. 皮下腫瘍/山本祐実-中園裕一/別府医療センター/90 代男性/
Angiosarcoma/
Angiosarcoma

9. 母指爪下腫瘍/久保田理子-小山雄三/大分大学医学部診断病理学講座
—大分市医師会アルメイダ病院診断病理部/30 代男性/
Extraskelatal (extraosseous) Ewing sarcoma/
Merkel cell carcinoma
10. 角膜病変/廣田悠治/福岡大学病院病理部/50 代女性/
Acanthamoeba keratitis/
Acanthamoeba

2. 開催予定

第 399 回九州・沖縄スライドコンファレンス

開催日時：2024 年 5 月 18 日（土）現地開催

世話人：九州大学 形態機能病理学 教授 小田義直先生
構造病態病理学 教授 相島慎一先生

同日、スラコン世話人会・支部総会も開催されます。

第 400 回九州・沖縄スライドコンファレンス

開催日時：2024 年 7 月 6 日（土）現地開催

世話人：熊本総合病院 病理診断科

猪山賢一先生、大園一隆先生

400 回記念特別イベントも同時開催されます。

=====
病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mail など御投稿下さい。

病理専門医部会会報編集委員会：池田純一郎（委員長）、田中 敏（北海道支部）、長谷川剛（東北支部）、林雄一郎（関東支部）、浦野 誠（中部支部）、竹内康英（近畿支部）、水野洋輔（中国四国支部）、立石悠基（九州沖縄支部）
=====